

開政会 令和元年度 都市行政調査

●調査議員：稗貫 秀次

小森 唯永

清水 隆吉

●調査期間：

令和元年7月11日（木）～7月13日（土）

●調査地

三重県松阪市、東京都墨田区

●調査項目

クリーンセンターと最終処分場について

（三重県松阪市）

災害の脅威と備えについて

（東京消防庁本所防災館）

都市行政調査報告書 帯広市議会 開政会

《日時》

令和元年7月12日（金）9：30～12：00

《参加議員》

稗貫 秀次、小森 唯永、清水 隆吉

《調査項目》

クリーンセンターと最終処分場について

《調査先》

松阪市クリーンセンター（三重県松阪市桂瀬町751番地）

松阪市一般廃棄物最終処分場（三重県松阪市上川町985番地）

《調査概要》

帯広市にあるくりりんセンターは、平成8年10月に建設されてから23年余が経過している。耐用年数が迫ってきている点や管内の町村と複合的にごみを処理するといった観点から新中間処理施設建設の構想がある。環境モデル都市である帯広市においてもごみ処理の問題は重要であり、建設の際には費用を抑制できたといった先進事例のある三重県松阪市のクリーンセンター、そして同市の最終処分場に現地視察に赴いた。



クリーンセンター



最終処分場

●松阪市クリーンセンターの施設概要

・施設規模

事業主体：松阪市

施設名称：松阪市クリーンセンター

所在地：三重県松阪市桂瀬町751番地

着工／竣工：平成24年3月／平成27年3月

敷地面積：50,099.131 m²

建築面積：4,637.64 m²

延床面積：9,203.83 m²

構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上7階、地下1階



《質疑》

Q：当初の予算からかなり減額して建設しているが、経緯はどのようなものであったのか。

A：計画は平成24年であり当時の職員や知っているものはいないが、当時の市長のリーダーシップをフルに発揮したということに尽きる。こうしたごみ処理施設の建設は大手ゼネコンが展開することが多く、失敗は許されないものである。実績のあるところを選定していくというところがほとんどである。しかし、経費をいたずらにあげることを抑制することを目的として、市長が入札の時に本気で戦わせた。予定価格としては当時の一般的価格は210億円ほどであった。総トータルコストとしては130億円ほどで収まった。入札に参加していただいたメーカー3社は60数%から70%ほどで入札していただいた。結果としては競争原理が働いた。入札の際には価格点と技術点があるが、往々にして価格点が勝っても結果として技術点において負けてしまうといった状況が全国的に見られた背景から、市長が価格にも重点を置くといった方針を採った。

Q：平成22年6月に立ち上げた「ごみ処理施設建設 専門委員会」の有識者4名とはどんな方々なのか。

A：廃棄物学会の会長を歴任された方や規約に精通した弁護士など。

《所感》

近い将来、帯広市においても新中間処理施設の建設が予定されている。その中でも松阪市としての辣腕は技術点の付け方である。松阪市は技術点の付け方を、要求する要望をクリアしていれば問題ないという形の評価をした。つまり評価のポイントとしての点数付けを行わなかったのである。合格点さえ超えればあとは価格での応札といったことになり、そこに競争原理が働いた、という。

本市においても建設するにあたってはかなりの費用がかかることが予想される。その中で、より良いものが建設されることを前提とし、いかに住民負担を減らしていけるか、納得のいくものが造られるのか、今後とも調査研究を重ねてまいりたい。



帯広市議会 開政会

《日時》

令和元年7月13日（土）9：00～11：00

《参加議員》

稗貫 秀次、小森 唯永、清水 隆吉

《調査項目》

災害の脅威と備えについて

《調査先》

東京消防庁本所防災館（東京都墨田区横川4-6-6）

《調査概要》

近年の日本において災害が頻繁に起きており、本市においても災害は他人事ではない。北海道全域で平成28年8月中旬以降に襲来した一連の台風は激甚災害に指定、十勝においてもお亡くなりになられた方もおられ、そして平成30年に発生した北海道胆振東部地震では、北海道全域で停電、ブラックアウトとなったことも記憶に新しい。防災の意識を高める観点から東京消防庁本所防災館を視察しに調査に赴いた。



●本所防災館

1 F

・地震体験コーナー

本物そっくりの地震を体験し、その恐ろしさを知り、いざという時の行動を身につける。また、映像により地震に対する備えの重要性をわかりやすく説明している。

・都市型水害体験コーナー

局地的集中豪雨や津波に関する映像、地下のドアや自動車が浸水して、水圧がかかっているドアの開放体験ができる。



2 F

・煙体験コーナー

煙の特性や危険性を知ったうえで煙と空気の境目である中性帯の中を避難する。正しい避難の方法を身につけ冷静な判断力と確実な行動力を養う。

・消火体験コーナー

実際の火災をシミュレートした大型のスクリーンを相手に消火器、または屋内消火栓の使い方を覚える。

・応急手当体験コーナー

心肺蘇生法などの応急手当を訓練用の人形を実際に使って体験できる。また、AED（自動体外式除細動器）も実際に使用し訓練できる。



3 F

暴風雨体験コーナー

風水害をもたらすほどの強風大雨を体験し、そのすさまじさを知るとともに強風や大雨に関する知識を高める。

4 F

防災シアター

音響システム、座席の振動等、インパクトのある演出を用いて、地震をテーマに迫力ある映像を上映する。



自由見学コーナー

1 F

- ・ こども広場

2 F

- ・ 119番通報コーナー

3 F

- ・ 防災ライブラリ（「東京防災」学習コーナー）
- ・ 異常気象エリア
- ・ 川の手地域エリア
- ・ 川の手地域コーナー・自然災害史
- ・ 地震の液状化実験

4 F

- ・ 防災ゲームコーナー



《所感》

災害は十勝帯広においても他人ごとではない。しかし、実際には事後に気付かされることが多々あることもまた事実である。防災館での震度7の体験や消火器の使い方、大雨での暴風雨の疑似体験は大変参考になった。本州と比較しても北海道に所在する帯広市においては冬季に地震などの避難に直面するような災害はまだ起きてはいないが、「まだ」なだけである。地震、大雨、大雪、停電、寒さ対策、避難所、高齢者、小さい子ども、・・・等々、災害前にシミュレートし、あらゆる局面を想像し、どのような対策を取れるのか、効果的なのか、様々な可能性を模索し、今後も調査研究を続けてまいりたい。

